

第 1 回 館山市議会定例会会議録
(第 6 号)

1 昭和63年3月22日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 脇田 安保
3 番 田沢 勝信
5 番 岩村 勝弘
7 番 生稲 陞
9 番 山口 康雄
11 番 神田 守隆
13 番 山中金治郎
15 番 横溝 功
17 番 石井 謀
19 番 川名 正二
21 番 辻田 実
23 番 流山源次郎
26 番 近藤 好雄
28 番 飯田 義男

2 番 永井 龍平
4 番 庄司二三男
6 番 山崎 雅己
8 番 鈴木 勝美
10 番 鈴木 忠夫
12 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫
16 番 石井 昌治
18 番 日下 君敏
20 番 福原 勤
22 番 黒川 平治
25 番 渡辺 昭夫
27 番 林 豊

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会会長 山田 教和
選挙管理委員会会長 加藤 利
監査委員 鈴木 重司
農業委員会会長 斎藤 明

助 役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 渡辺 弘
水道課長 石井 敏夫
教育委員会会長 福原 修
選挙管理委員会書記長 佐藤 輝雄
監査事務局長 橋本 巖利
農業委員会会長 池田 六郎
事務局

1 出席事務局職員

事務局長 庄司 利光
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 土橋 康彦

1 議事日程（第6号）

昭和63年3月22日午前10時開議

- | | | |
|------|---------|--|
| 日程第1 | 議案第 8 号 | 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第 9 号 | 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第10号 | 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第11号 | 議会の議決に付すべき公の施設の独占的利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第12号 | 館山市立博物館資料購入基金条例の制定について |
| | 議案第13号 | 新たに生じた土地の確認について |
| | 議案第14号 | 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて |
| | 議案第15号 | 財産の無償譲渡について |
| 日程第2 | 議案第24号 | 昭和62年度館山市一般会計補正予算（第4号） |
| | 議案第16号 | 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第17号 | 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第18号 | 館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第19号 | 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |

- 議案第 20 号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 25 号 昭和 62 年度館山市老人保健特別会計補正予算（第 2 号）
- 日程第 3 { 議案第 21 号 館山市中小企業資金の融資に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 22 号 館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 23 号 市道路線の変更及び認定について
- 日程第 4 { 請願第 8 号 気象事業の整備拡充を求める請願書
- 請願第 9 号 大型間接税の導入に反対する意見書の提出をもとめる請願書
- 日程第 5 請願第 10 号 国民健康保険についての請願書
- 日程第 6 { 議案第 1 号 昭和 63 年度館山市一般会計予算
- 議案第 2 号 昭和 63 年度館山市国民健康保険特別会計予算
- 議案第 3 号 昭和 63 年度館山市老人保健特別会計予算
- 議案第 4 号 昭和 63 年度館山市ユースホステル特別会計予算
- 議案第 5 号 昭和 63 年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
- 議案第 6 号 昭和 63 年度館山市水道事業特別会計予算
- 議案第 7 号 昭和 63 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算
- 日程第 7 議案第 26 号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 日程第 8 議案第 27 号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第 9 議案第 28 号 館山市収入役の選任について

開 議 午前 10 時 17 分

○議長（飯田義男君） 本日の出席議員数 26 名、これより第 1 回市議会定例会第 6 日目の会議を開きます。

追悼の言葉

○議長（飯田義男君） この際、御報告申し上げます。

本市議会議員松下正己君には、3 月 12 日午前 10 時 34 分急逝されました。ここに謹んで哀悼の誠を捧げ、御報告を申し上げます。

このことについて、辻田 実君から発言を求められておりますので、暫時これを許します。

（21 番議員辻田 実君登壇）

○21 番（辻田 実君） ただいま議長から報告のありましたとおり、松下正己議員には 3 月 12 日急逝されました。

ここに、皆さま方の御同意をいただき、議員一同を代表いたしまして、謹んで哀悼の言葉を捧げます。

あなたは、昭和 30 年明治大学商学部を御卒業後、家業を継がれましたが、生来の温厚にして快活な人柄は、常に地域の人々に敬慕されるところとなり、消防団活動、青少年団体育成事業、子供会育成会活動等地域住民に密着した幅広い御活躍を続けてこられました。

昭和 50 年、衆望を担い、館山市議会議員選挙に立候補、見事当選の栄に浴されました。自来、4 期 10 余年の長きにわたり、ふれあいの中にまちづくり、青少年に夢をと標榜され、特に、教育の振興、青少年の健全育成、消防行政の充実に意を注がれました。

この間、総務委員会委員長、文教民生委員会委員長、学校給食組合議会議長、館山市監査委員等の要職につかれ、議会人としての職責に徹してこられました。

また、昭和 60 年には、長年にわたる青少年健全育成に対する御功績が高く評価され、千葉県教育功労賞を受賞されたのであります。

昨年、6 月定例議会後、体の不調を訴えられ、入院加療に専念されたのでありますが、旬日を出ずして回復され、ますますの御活躍を期待しておりましたところ、任期半ばにして忽然として不帰の客となられ、ここに追悼の言葉を申し述べようとは、夢想だにしなかったことで、この

世のならいとはいえ、誠に痛恨の極みであり、残念でなりません。

また、御遺族の方々の悲しみはいかばかりかと察するにあまりあるものがございます。

地方行政は、ますます多難な時代を迎え、本市におきましても重要な課題が山積し、あなたの豊かな経験と卓越した識見にまつべきものがあるとき、あなたを失いましたことは、本市といたしましても大きな損失であり、こみあげる哀惜の情を禁じ得ません。

しかしながら、あなたの議会人としての情熱と真摯な姿勢は、長く本市議会の中に生き続けることを信じて疑いません。

常日ごろ、元気に登庁された姿も今はなく、あなたの議席である24番は空席となってしまったのであります。

今、ここにあなたの議席に花束を捧げ、その功績をたたえ、温容をしのび、心から御冥福をお祈りいたしまして、追悼の言葉といたします。

◎議長（飯田義男君） 次に、市長から発言を求められておりますので、暫時、これを許します。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 執行部を代表いたしまして、故松下正己議員の御逝去を悼み、謹んで哀悼の言葉を申し述べます。

松下さん、あなたは、昭和7年に生を受けられ、昭和30年、明治大学商学部を卒業後、家業に御専念なさいましたが、生来の明るさと世話好きで飾らないお人柄は、地域にありまして欠くことのできない存在として大きな信頼を得るところとなり、消防団をはじめ子供会育成会、青少年健全育成事業など、幅広い地域活動が続けてこられました。

そして、昭和50年、衆望を担い、見事館山市議会議員に当選、初陣を飾られたのであります。以来、4期連続して当選の偉業をなし遂げ、市政の推進に参画されましたが、この間、総務委員会委員長、文教民生委員会委員長、学校給食組合議会議長、館山市監査委員等の要職を歴任され、市民福祉の向上に貢献されました。

こうした熱心な議会活動とともに、子供好きの松下さんは、次代の担い手となる青少年の育成活動にも情熱を注がれ、その長年にわたる御功績により昭和60年には千葉県教育功労賞を授与されました。

このように人々をして親愛の情と尊敬の念を起こさしめた松下さんに、今後の御活躍にまつべきもの大なるものがございましたが、志半ばにしてこのたびの御訃報は誠に残念極まりございません。

今、南房総地域は、新たなビッグプロジェクトの進展により、21世紀に向けて大きく変わろうとしております。こうした中で、新しいまちづくりを進めている本市にとりまして、限りない郷土愛に燃えていた松下さんを失いましたことは、誠に大きな損失と惜しまれてなりません。

しかしながら、松下さんが郷土館山市に尽くされた多くの偉業は、これから脈々として生き続けるものと信じております。

これから、私たちは、松下さんの御遺志を対し、本市の発展のため全力を尽くして邁進する所存であります。

ここに、松下さんのこれまでの幅広い御活躍並びに御功績に対しまして、市民の皆さま方とともに厚くお礼を申し上げますと同時に、改めて松下さんの御冥福と御遺族の皆さま方の御多幸を心からお祈り申し上げます。追悼の言葉といたします。

黙 禱

◎議長（飯田義男君） この際、故松下正己君の霊に謹んで黙禱を捧げ、御冥福をお祈りいたしたいと思います。

御起立願います。黙禱始め。

（起立、黙禱）

◎議長（飯田義男君） 黙禱を終わります。

御着席願います。

議長の報告

◎議長（飯田義男君） この際、申し上げます。

昭和63年度予算説明資料中、一部印刷に誤りがあったので訂正されたいとの申し出がありました。お手元に配付の正誤表により御了承願います。

議案の配付

◎議長（飯田義男君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第1、議案第8号乃至議案第15号及び議案第24号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月10日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長渡辺昭夫君。御登壇願います。

（総務委員会委員長渡辺昭夫君登壇）

◎総務委員会委員長（渡辺昭夫君） ただいま議題となりました議案第8号乃至議案第15号及び議案第24号に係る総務委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月10日開会の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案につきまして、14日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして、主なる事項を御報告申し上げます。

まず、議案第12号館山市立博物館資料購入基金条例の制定についてであります。県内他市における基金の設置状況及び基金の額を1000万円とした理由について説明を求めましたところ、県内の市博物館では基金を設定しているところはないが、県の美術館において2億円の基金がある、全国的には倉吉博物館、水戸史料館において基金を設定している、なお基金額1000万円については、過去の購入事例において1000万円が最高であること等を勘案して設定したとの答弁がありました。

次に、議案第13号新たに生じた土地の確認について、議案第14号新たに生じた土地を市の区域内に編入することについてであります。埋め立て後の土地の所有者及び公害防止対策について説明を求めましたところ、土地の所有者は千葉県である、公害防止については絶えず県に話をしているが、ほこり等の防護柵を検討しているとの説明がありました。

次に、議案第15号財産の無償譲渡についてであります。今後も建設後20年を経過した青年館については譲渡する方針であるか、また現在の青年館の敷地の状況について説明を求めましたところ、今後も20年を経過したものについて譲渡する方針である、敷地については40館のうち国有地2件、市の土地1件、私有地10件、残りが社寺等の所有地であり、今回譲渡しようとする建物の敷地は、すべて共有地であるとの説明がありました。

なお、譲渡にあたっては、特に登記等、将来問題を生ずることのないよう地元と十分協議し、慎重に対処されたいとの意見がありました。

次に、議案第24号昭和62年度館山市一般会計補正予算第4号についてであります。市税の収納状況及び滞納整理に対する取り組みについて説明を求めましたところ、2月末現在において現年課税分85.5%、滞納繰越分24.9%、合計81.75%であり、前年同期に比べて0.92%減となっている、なお滞納整理にあたっては臨戸徴収を基本とし、特に重点的に年2回各課職員の協力を得て全庁的に実施しているとの説明がありました。

次に、歳出、民生費中、生活扶助費について、生活扶助の対象となる資産、所得の基準について説明を求めましたところ、住む家、土地についての所有は認められるが、預金がある場合はこれを全部消費した後に、保険に加入している場合は解約し、返戻金を消費後に、車を所有していれば処分後に保護を適用することになる旨の説明がありました。

次に、都市計画費に関連して、地域振興の観点から都市計画の見直しが必要ではないかとの質疑に対し、昭和44年の指定以降、必要に応じて見直し等しているが、社会情勢の変化や県の指導もあるので、63年度以降、調査に着手したい旨の答弁がありました。

次に、諸支出金中、土地開発基金、財政調整基金の現在高について説明を求めましたところ、3月末において、土地開発基金約4億9900万円、財政調整基金約11億700万円であるとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第8号乃至第15号及び議案第24号の各議案は、いずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案第8号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例、議案第9号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例、議案第10号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例についての各議案に反対の討論をいたします。

議員や市長ら特別職の給与等を引き上げようとするものでありますが、これら特別職の給与等は市民の十分な理解を得られるものでなければなりません。報酬等審議会の審議内容では、全員一致でこの案を承認し、答申したとのことでありましたが、率直に申し上げて、十分に市民の理解を得ているとは思えません。したがって、この案には反対いたします。

私は、議員の報酬は地域における勤労者の平均的な生活水準を維持し、かつ議員として活動するのに必要な諸経費を加えた額を考慮し、住民の理解を得て決めるべき事柄であると考えます。

ところが、この報酬をめぐる議会論議の中で、市長の給与に対して議

員の報酬が低いではないかと、市長給与に対する議員報酬の割合を他市と比べて、議員報酬の引き上げを求めるという主張が社会党の辻田議員から出されましたが、議員の報酬は市長給与との割合で決めるべき性格のものではありません。報酬をめぐる論議の中で出された社会党辻田議員のこの主張には反対をいたします。

この点を特に申し述べまして、議案に対する反対討論といたします。

○議長（飯田義男君） 以上で、11番議員神田守隆君の討論を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

○21番（辻田 実君） 通告をいたしました日程第1のうち議案第24号昭和62年度館山市一般会計補正予算に対するところの御意見を申し述べさせていただきますと思います。

この補正予算は、歳出入で3億648万円を追加補正し、総額で103億8528万9000円とするものでございます。この補正は歳出の減額によるところが多いのであり、残金の処理を目的としたものと思われます。しかし、処理の方法としては消極であると思いますが、館山駅西口の再開発用地の購入、市民運動場用地の購入に一部が振り向けられた点につきましては、高く評価するところでございます。また、諸支出金として用地購入費2億2082万円、財政調整基金2884万7000円を積み立てた点は適切であったろうと思われます。したがって、補正予算に対しましては、私は賛成をいたすところでございます。

ここで、私は、一つ意見を申し述べたいと思うのでございます。館山駅東口地区市街地再開発事業の未執行による予算の減については、その政治責任を追及するところでございます。説明では地権者との話し合いが不調に終わったことによるものと述べられておりますが、館山駅周辺の再開発は62年度の市政の最も大きな柱でございます。また、館山駅周辺の再開発は、13年前の市長選挙で私と争ったときの最大の公約であったはずでございます。しかしながら、このように市民の非常に大きな期待を集めておりますところの館山駅周辺開発の予算が未執行に終わったということについては、非常に残念でならないのでございます。

敗者のひがみかもしれませんが、私が市長になっていれば西口の開設と東口の開発は緒についていたかと思うと残念でなりません。私は、館山の玄関である駅周辺の整備ができなければ21世紀へ向かっての近代都市館山の建設は望めないと思っております。この点を意見として申し述べ、今後、駅前再開発については十分な御配慮をしていただきたいことを意見として申し述べ、討論を終わらせていただきます。

○議長（飯田義男君） 以上で、21番議員辻田実君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第8号乃至議案第10号について一括して起立により採決いたします。

議案第8号乃至議案第10号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、議案第8号乃至議案第10号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第11号乃至議案第15号及び議案第24号について一括して採決いたします。

議案第11号乃至議案第15号及び議案第24号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議案第11号

乃至議案第 15 号及び議案第 24 号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第 2、議案第 16 号乃至議案第 20 号及び議案第 25 号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに 3 月 10 日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長榎本春光君登壇）

◎文教民生委員会委員長（榎本春光君） ただいま議題となりました議案第 16 号乃至議案第 20 号及び議案第 25 号に係る文教民生委員会における審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る 3 月 10 日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3 月 15 日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なる事項について申し上げます。

まず、議案第 16 号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。地区公民館書記の業務内容及び教頭が兼務することで学校教育に支障はないか、さらに書記の専任化に対する考えについて説明を求めましたところ、業務としては行事通知文の作成、発送、予算執行手続、関係機関との連絡調整等であるが、学校教育に支障を及ぼさないよう館長、副館長がそれぞれ業務を分担しているし、中央公民館の職員が印刷業務を手伝う等、業務の軽減を図っている、なお、地区公民館行事は学校との連携のもとでの行事が多く、書記については現状のままでいきたいとの説明がありました。

次に、議案第 17 号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部

を改正する条例の制定についてであります。保育料等の減免の状況について説明を求めましたところ、本年度において生活保護世帯3人、市民税非課税世帯28人、市民税所得割非課税世帯5人であるとの説明がありました。

なお、今回の入園料の改定に伴い、減免額についても見直す必要があるのではないか、また国の幼稚園就園奨励費補助金の対象範囲に比べ、市の減免適用の範囲が狭くなっているが、これを国の基準まで拡大すべきではないかとの質問に対しまして、今後、検討したいとの答弁がありました。

さらに、1年保育と2年保育の幼稚園があるが、入園料に対しても経過措置を考えるべきではないかとの質問に対しまして、2年保育と1年保育の幼稚園で入園料が同じというのは公平を欠く面もあると考えるので、5歳児から入園するものについては減免をするとの答弁がありました。

なお、討論において、地方交付税の算定基準に連動する形で提案されていること、安房郡市との比較では高いし、入園料を取っていないところがほとんどであり、現状での引き上げは認められないとの反対意見がありました。

次に、議案第19号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。20年を経過する青年館の数について説明を求めましたところ、今回、提案したものが5館、来年度4館であるとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第16号、議案第18号乃至議案第20号及び議案第25号の各議案については全員一致をもって、また、議案第17号については賛成多数をもっていずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 日程第2、議案第17号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について反対討論をいたします。

この条例につきましては、ただいまの委員長報告にもございましたように、その理由は昭和62年度地方交付税改正上の基準にあわせて行われたものであるということが申し述べられておりましたけれども、私は、館山市の幼児教育のこれまでの歴史を振り返り、現況の中において値上げをすべきではないという観点から意見を申し述べさせていただきますと思うのでございます。

その1つは、委員長報告にもございましたように、まず館山市の入園料につきましては、近隣町村に比較しても高いということ、そしてまた取っていない市町村も数は少ないがあるということでございます。

第2番目には、館山市は昭和46年保育料の全面無料を打ち出しました。これは当時としましては、日本全国に響きわたりましたところのすばらしい政策の実現であったことは記憶に新しいところでございます。その要点は所得格差による不公平の是正と幼児教育の充実にあったのでございます。それが今日になりましてなし崩し的に保育料並びに入園料の徴収が行われておりますけれども、私は、この館山の伝統というものは、館山市にとって誇りあるものであって決して曲げる必要はないというふうに考えているからでございます。

また、第2番目として、今日におきまして、就学前の幼児教育というのは、館山教育におきますところのすばらしい位置づけになっているわけでございます。このことが今日の館山の義務教育の水準を大きく高めているといって私は過言でないと思います。昭和46年当時の市長、教育委員会は、幼児教育、小学校教育の一貫教育を目指すという方針を貫

ぬいておったわけでございます。このことはすばらしいことと
ございます。そして、昭和48年以降は、5歳児の就園率が、公立幼稚園におき
ましては80%、保育園児の5歳児を入れますと98.5%に達して、
以来、常に5歳児の就園率は幼稚園並びに保育園児を含めて98%を超
えて今日に至っているという状況があるわけでございます。

そして、3番目には、なおかつ館山の公立幼稚園は全小学校区に設置
されておるということでございます。これは全国にも類例がないことで
ございます。なおかつ先ほど申したように、館山市の幼児教育は幼少一
貫教育という立場から、昭和46年以来、小学校の校長が園長を兼務し
てその成果を上げているところは御案内のとおりでございます。

したがいまして、この幼少一貫教育という立場に立ちますれば、義務
教育の無料制度は国の法律として、国の教育の基本方針として実施され
ている中におきまして、幼稚園の入園料、さらには幼稚園の保育料を取
っていくということ、地方財政が苦しいからといってこの館山の全国に
誇るどころの幼児教育の政策を根本から否定することにつながるような
保育料並びに入園料に対しましては、私は反対するものでございます。

今回の値上げに際しましても、1人当たり1200円でございます。
全体的には100万円弱のものであるわけでございます。こうした幼少
一貫の教育という大原則に立つならば、今日の館山の市財政の中におい
てこの程度の予算はまかなうことができるであろうし、近隣町村との歩
調も合わせることもできるというふうに思うわけでございまして、そう
いった点については地方交付税の算定上の基準の改正があったからとい
うことでもって、こういう改正を行うことについては私は反対でござい
まして、館山市の教育の名誉につきましてもこの点については撤回して
いただきますことを要望いたしまして、私の反対討論とさせていただきます。

◎議長（飯田義男君） 以上で、21番議員辻田 実君の討論を終わ
ります。

以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論
ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたしま
す。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第16号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第17号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第18号乃至議案第20号及び議案第25号について一括して採決いたします。

議案第18号乃至議案第20号及び議案第25号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議案第18号乃至議案第20号及び議案第25号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第3、議案第21号乃至議案第23号の各

議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月10日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長川名正二君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長川名正二君登壇）

◎建設経済委員会委員長（川名正二君） ただいま議題となりました議案第21号乃至議案第23号に係る建設経済委員会におきます審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る3月10日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、16日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なる事項について御報告申し上げます。

まず、議案第21号館山市中小企業資金の融資に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。融資の利用状況及び利子補給の額について説明を求めましたところ、昨年度、運転資金について2件、設備資金について5件、計7件の融資を実施しており、利子補給の額は39万2030円であるとの説明がありました。

次に、議案第22号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。平日利用料金をなくすに至った経緯について説明を求めましたところ、昭和57年に環境庁の基準が示され、それに基づいて各県とも県内ごとに検討して、基準以内での料金が設定されました。千葉県では平日料金として大人、小学生についてそれぞれ400円、幼児について200円低い料金を申し合わせにより設定いたしました。昨年、夏前から関東近県のほとんどにおいて基準料金に引き上げられたことから、県内においても国民宿舎連絡協議会で協議の結果、基準料金に引き上げることにしたものであるとの説明がありました。

次に、議案第23号市道路線の変更及び認定についてであります。提案されている5路線についてそれぞれ位置等に関する質疑がありまし

た。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第21号乃至議案第23号の各議案はいずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

建設経済委員会委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第21号乃至議案第23号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議案第21号乃至議案第23号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（飯田義男君） 日程第4、請願第8号及び請願第9号の各請願を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各請願は、ともに3月10日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長渡辺昭夫君。御登壇願います。

(総務委員会委員長渡辺昭夫君登壇)

◎総務委員会委員長(渡辺昭夫君) ただいま議題となりました請願第8号及び請願第9号に係る総務委員会におきます審査の概要について御報告申し上げます。

各請願につきましては、3月10日開会の本会議において本委員会に付託されたものでありまして、3月14日招集の委員会において審査いたしました。

まず、請願第8号気象事業の整備拡充を求める請願書につきましては、三方を海に囲まれている本県にとって、また海を最大の資源とする本市において、海の安全確保は欠くことのできない問題であり、的確な気象情報を得るための体制整備は急務であるとの意見があり、採決の結果、全員一致をもって採択すべきものと決しました。

次に、請願第9号大型間接税の導入に反対する意見書の提出をもとめる請願書についてであります。税制の改革に対する問題は将来の大きな課題として現在国会でも論議されており、国会の動向を見守るべきだとの意見があり、採決の結果、賛成者がなく、不採択とすべきものと決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長(飯田義男君) 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長(飯田義男君) これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(11番議員神田守隆君登壇)

◎11番(神田守隆君) 請願第9号大型間接税の導入に反対する意見

書の提出をもとめる請願書につきまして、賛成の討論をいたします。

去年の春、国民の怒りが爆発して廃案にされた大型間接税、いわゆる売上税であります。この売上税に代わりまして、新たなタイプの大型間接税が今、急浮上してまいりました。竹下内閣は、この秋にも成立をさせるとしておるわけであります。

一去年の衆参同時選挙で、中曽根前首相は、大型間接税はやらないと天下に公約をいたしました。竹下現首相をはじめ自民党議員の8割、257人が大型間接税反対を表明して選挙に臨んだのは、まだ記憶に新しいところであります。この後、国政選挙はやられていないわけでありまうから、この公約はそのまま生きているわけであります。大型間接税導入は、まさに公約違反と言わなければなりません。どうしても導入するというのなら、解散、総選挙をして、国民の信を問うべきであります。

竹下内閣は、去年、売上税で失敗したために、名前や仕組みを少し変えて臨もうとしておるわけですが、大型間接税の具体案はまだ明らかにされないままであります。しかし、その狙いはあらゆる商品とサービスに、メーカーから小売り段階に至るまで、すべての段階にかける大型間接税であります。赤ちゃんからお年寄りまで、収入がなかろうが物を買えば税金を取りたてる大型間接税の仕組みに変わりはありません。

現在、論議がされている大型間接税では、私たち庶民の暮らしにとつては、去年の売上税よりもさらに影響は深刻なものとなりかねません。売上税では、食料品や教育費関係は非課税品目として課税しないとしておりましたが、今、論議されている中では原則として非課税品目はつくらないとしています。

また、売上税では、年商1億円未満は免税業者としていましたが、これも年商2000万円以下にするとされております。課税業者は、売上税に比べて3倍以上も大幅にふえることが懸念されます。

一般庶民や中小零細業者にとって、売上税よりもその影響は深刻だと言わなければなりません。

直間比率見直し論が盛んに宣伝されています。現行の直接税と間接税の比率7対3を6対4乃至5対5にしてはどうかというものでありますが、もともと間接税は所得の低い人ほど重税となる逆累進制の税制であ

ります。本来、税の原則は所得の高い人にはそれなりの負担をしてもらうものであるはずであります。直間比率を云々いたしますが、例えばアメリカの税制ではこの比率は日本の7対3に比べてさらに徹底していて、アメリカでは9対1だといわれています。現に、日本の間接税比率は、アメリカよりも大変高くなっていると言わなければなりません。

さきの大阪の参議院補欠選挙が戦われ、大型間接税反対を強く押し出しました我が党の吉井候補が、自民党、社会党の候補者を打ち破り当選をいたしました。すでに国民の審判は出されております。

政府に対し、この際、大型間接税を導入しないよう意見書の提出を求める本請願は、大変重要なことかと考えます。税制改革については国会の動向を見守るべきとの委員会の審査経過が報告されましたが、国会の審議がされないようにしなければならないわけで、そのためにこそ、この請願を今、採択されることが大変重要かと思うわけであります。

この点を特に主張いたしまして、本請願の採択をするよう賛成討論いたします。

◎議長（飯田義男君） 以上で、11番議員神田守隆君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論は終わりましたが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第8号気象事業の整備拡充を求める請願書について採決いたします。

本請願についての委員長の報告は採択であります。

本請願を委員長の報告どおり採択と決めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は採択

と決しました。

次いで、請願第9号大型間接税の導入に反対する意見書の提出をもとめる請願書について起立により採決いたします。

本請願についての委員長の報告は不採択であります。

本請願を委員長の報告どおり不採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本請願は不採択と決しました。

日程の追加

◎議長(飯田義男君) お諮りいたします。

ただいま採択されました請願に付帯して発議案第1号気象事業の整備拡充を求める意見書についてが提出されました。

この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長(飯田義男君) 発議案第1号気象事業の整備拡充を求める意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

◎議長(飯田義男君) 議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願ひます。

(書記朗読)

◎議長(飯田義男君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（飯田義男君） 提出者の説明を求めます。

（25番議員渡辺昭夫君登壇）

◎25番（渡辺昭夫君） 発議案第1号気象事業の整備拡充を求める意見書について提案理由を御説明申し上げます。

ただいま朗読のとおり、本案につきましては、さらに的確な気象情報の提供がされるよう、気象事業の整備拡充について関係機関に要望しようとするものでありまして、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして、お手元に配付のとおり8名の賛成者を得まして本案を提案いたしました次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（飯田義男君） 日程第5、請願第10号国民健康保険についての請願書を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（飯田義男君） ただいま議題となりました請願第10号は、3月10日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長榎本春光君登壇）

○文教民生委員会委員長（榎本春光君） ただいま議題となりました請願第10号国民健康保険についての請願書に係る文教民生委員会におきます審査の概要について御報告申し上げます。

本請願につきましては、3月10日開会の本会議におきまして、本委員会に付託されたものでありまして、3月15日招集の委員会において審査を行いました。

まず、資格証明書の交付の状況について説明を求めましたところ、昨年4月、法改正があり、4月に11件の資格証明書を交付したが、現在は5件であるとの説明がありました。

また、現在、国会において審議されている法改正の内容と影響について説明を求めましたところ、保険基盤安定制度により保険税が500億円軽減、高額療養費の共同事業により保険税が200億円軽減される、

老人保健拠出金に係る補助率の引き下げにより保険税への影響が460億円と、全国レベルで240億円保険者の負担が軽減するというのが国の考えであるとの説明がありました。

討論において、国民健康保険事業は、本来、国が責任を負うべきもので、十分な財政措置がされなければならない、また、保険証の不交付が大きな問題となりつつあるので、行政の側でも十分留意すべきであるとの賛成意見がありました。

採決の結果、賛成少数をもって不採択とすべきものと決しました。

以上、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で、委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（飯田義男君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本請願についての委員長の報告は不採択であります。

本請願を委員長の報告どおり不採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、本請願は不採択と決しました。

議長の報告

◎議長（飯田義男君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。

お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第6、議案第1号乃至議案第7号昭和63年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

予算審査特別委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各会計予算は、ともに3月11日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長林 豊君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長林 豊君登壇）

◎予算審査特別委員会委員長（林 豊君） ただいま議題となりました議案第1号乃至議案第7号昭和63年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告を申し上げます。

去る11日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を17日招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計、歳出であります。

第2款総務費中、総務管理費において市制施行50周年記念事業に関する予算がそれぞれ計上されていますが、50周年記念事業に対する取り組み方について質問しましたところ、新年度早々、（仮称）館山市制施行50周年記念事業策定市民会議と記念事業企画検討委員会を設置し、まず記念事業企画検討委員会において先日募集したアイデア等を参考にイベントを中心として協議を願って計画案を作成していただき、さらに

記念事業計画策定市民会議でその計画案について調査検討を加え、6月中旬に中間報告、9月中旬に最終報告をしていただくということで考えている。さらに、庁内においても部課長による連絡会議を設置し、記念事業の実現に向けて連絡調整等協力をしていきたい。また、シンボルカラー、マスコットキャラクター等もつくって記念事業の意識高揚と浸透を図っていくとの説明がありました。

次に、交通安全対策費中、交通安全施設の整備等について各委員から詳細に質疑がなされました。

なお、補助金の中で、館山交通安全協会の交通指導員活動補助金が計上されており、これについては制服のとりかえの際に使用されているとの説明がありましたが、関連して、指導員の状況について説明を求めましたところ、交通指導員は現在交通安全協会で107名、その中からさらに市の指導員36名を委嘱しており、今のところ増員の考えはないとの説明がありました。

さらに、指導員は長い間委嘱されており、高年齢化してきているという状況の中で、その補充について、また交通安全の啓蒙活動について、交通安全協会に任せるのではなく、コミュニティ活動等の中で検討すべきではないかとの意見があり、今後指導員の体制等含めて十分検討されるよう要望いたしました。

次に、第2項徴税費として1億9854万9000円が計上されていますが、歳入に対する徴税費の割合について他市の状況はどうかとの質問に対し、県の昭和60年度の「徴税費に関する調べ」の中で、個人県民税を含めた市町村税の収入済み額に対して、人件費、需用費、報償金等の徴税費の割合は、県下28市平均が2.3%で、本市は3.4%と若干平均を上回っているとの説明がありました。

次に、市は半島振興法の指定、またリゾート法の成立等からまさに南房総の幕あけであるということを機会あるごとに表明され、またそれに対応する施策が強く打ち出されているが、本予算案を見るとき、それを反映する具体的な予算の裏付けがないようにも見受けられるので、受け皿となるべき積極的な予算措置をされるよう要望いたしました。

次に、第3款民生費であります。社会福祉総務費に奨学基金繰出金

として70万9000円が計上されており、その財源については、来年度寄附金10万円を見込み、現在ある基金の利子60万8700円を繰り出すものであるとの説明がありました。

また、貸し付けの状況から増額する考えはないかたまたまのところ、貸付者は61年度8名、62年度7名、63年度の予定では5名前後で、現在原資として3814万7000円、貸付残高2160万円、運用資金として1650万円あり、なお、増額については、現在の大学1万4000円について検討することになっているとの説明がありました。

さらに、基金を善意の寄附だけに頼らずに、市としても支出すべきではないかとの指摘に対しまして、本市の奨学資金については、設立当初から善意の寄附により、その運用益で事業を行ってきたが、最近の授業料等の上昇もあり、市が出すべきかどうかについて検討するとの考えが示されました。

次に、老人福祉費中、来年度から高齢者サービス調整チーム会議報償金が計上されておりますが、その事業内容について説明を求めましたところ、今回新しく発足した制度で、その目的は、高齢者の多様なニーズに対応して、個々の高齢者のニーズに見合う最も適切なサービスを提供するため、保健、福祉、医療等の縦割りになっている各サービスを総合的に調整して推進していこうとするもので、事業の内容としては、訪問相談活動を通して高齢者のニーズの把握を行うこと、また高齢者の健康状況、経済状況、家庭環境等を踏まえた具体的なサービスを行うこと、また関係機関へのサービス提供の要請を行うとの説明がありました。なお、構成員として老人福祉、保健医療団体等の職員、家庭奉仕員、民生委員、医師、保健所の精神衛生相談員、社会福祉協議会の職員、老人福祉施設の職員等によりチームを編成するもので、県においても高齢者サービス総合調整推進会議を設けることになっているとの説明がありました。

次に、第4款衛生費であります。河川等の浄化対策についてはこれまでも本会議等において度々論議がなされているところでありますが、今回、家庭用小型合併処理浄化槽設置に対する補助金として1530万円が計上されたことにかんがみ、補助にあたっての基本的な考え方、住民

の負担等について詳細に説明を求めましたところ、単独浄化槽と家庭用の小型合併処理浄化槽の設置費の差額の補助を考えており、具体的には、5人槽の例で、現在市販されている小型合併処理浄化槽の単価が46万円とすると、単独浄化層の場合14万円で差額が32万円となり、補助最高限度額5人槽の場合の30万を補助する考えであり、その際工事費等は含まないこと。また、5人から10人までの家庭用小型合併浄化槽で、館山全域を補助対象として考えているとの説明がありましたが、さらに今後、市民への周知を図るよう積極的なPRを要望するとともに、将来の公共下水道計画等を考慮して、むだにならないような地域への促進を図るなど計画的に行うべきではないかとの意見がありました。

次に、第5款労働費でございますが、貸付金、補助金等を除くと極めて少額であるように思えるので、現在の税制度の中で勤労者の負担は大きいことから、勤労者の立場を考えた積極的な予算措置を要望いたしました。

次に、第6款農林水産業費であります。ほ場整備事業に対する負担割合について質疑があり、団体営ということで事業が行われる場合、国が45%、県が15%、地元負担40%となっているが、九重南部団体営土地改良総合整備事業の場合、地元負担の15%を市が補助しており、64年度以降団体営として予定される沼地区については、その総事業費がどの程度になるか調査した中で補助率を決定していくとの考えが示されました。

次に、水産業費中、クルマエビ、アワビの種苗放流事業補助金が計上されておりますが、成果をどのようにとらえているか説明を求めましたところ、資源が不足しているということから放流事業を行っている中で、追跡調査は非常に難しいが、組合の話では成果は上がっていると聞いている旨の説明がありました。

また、62年度から始められた魚介類宅配便事業については、来年度も補助金が計上されておりますが、その後の状況について説明を求めましたところ、現在、会員数は70名であるが、先般新聞で紹介されたことに伴い90件程度の問い合わせがきているようであるとの説明がありました。

次に、第7款商工費であります。本市の組織においては消費者保護の關係と商業等の振興を図る係が同一になっているが、その性質上、将来これをそれぞれ単独の係として設置し、それぞれの充実、振興を図るべきではないかとの意見がありました。

次に、第8款土木費であります。関連して、半島振興法、リゾート法、館山駅周辺開発、下水道問題等、非常に經濟部に係る事業量の増加また予算も増額されてきておることに伴い、經濟部、土木部というふうな部制の見直しも必要ではないかとの意見がありました。

さらに、JR館山駅橋上駅舎化等調査設計委託料が計上されておりますが、関連して自由通路の位置等についてはどのように考えているのか説明を求めましたところ、西口の交通広場と東口の駅前広場をつなぐものであり、極端に現在の駅から離れた場所ではなく、現在の交番のあたりから西口広場へということで、今後もJRと協議する中で検討していかなければならないとの説明がありました。

次に、第9款消防費であります。来年度千葉県消防操法大会に対する特別交付金が計上され、これについては安房支部の中で本市は3年ごとに出場するもので、第5分団12部が対象であるとの説明がありましたが、対象となった部については非常に多くの訓練が必要となり、それに係る費用については市費以外に後援会等でも寄附が行われていると聞くので、今後、過重な負担にならぬよう指導されたい旨の要望がありました。

次に、第10款教育費であります。過去の予算と比べて需用費が少ないように見受けられるがとの指摘に対し、金額については伸びていないが、生徒数が減少してきている関係から1人当たりの予算額は上がってきている。また、特に予算が不足しているというようなことは聞いていないとの説明がありましたが、教育的に圧迫されていることはないか、またPTAの負担にはねかえることはないか心配されるので、そういうことのないよう要望いたしました。

次に、一般会計歳入であります。まず、固定資産税が前年対比81万1000円の減額になっていることについて説明を求めましたところ、評価がえの關係もあり、現年課税分については微増となっているが、滞

納繰越分の関係で減額になっているとの説明がありました。

次に、地方交付税の積算について説明を求めましたところ、普通交付税については、基準財政需要額として52億5600万円、基準財政収入額として40億8000万円、差額が11億7600万円となり、県との協議の中でもその程度は見込めるのではないかということであったが、62年度において12月に補正を行ったようなこともあるので、結果として11億5000万円を計上したとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります、市民税に比較して特に滞納繰越分の徴収率が低い、徴収方法は同じということから何か事情があるのか説明を求めましたところ、同じ税であるので徴収方法は同じであるが、国保の場合、金額階層別で区分をすると、30万円未満が全体の48.2%を占めている、また滞納者のうち30万円未満が84.5%を占めているということで低額の滞納が多い、また低所得者が比較的多いということが徴収率を低くしているのではないかと説明がありました。

次に、水道事業特別会計であります、現在計画されている神余ダムについて、完成後は市民への給水は完全であるのか、またリゾート法との関係で需要が伸びると思うがどうか説明を求めましたところ、神余ダムについては、開発水量・日量4900ℓを見込んでおり、昭和75年度あたりになるとリゾート開発の水量が確定していないが、それらの水量によっては小さいということも考えられる。いずれにしても今後の水事情を考えるとダム計画を進めなければならないということで、リゾート開発のためでなく、既存施設の水の増大を合わせたものとしてダム計画を進めていこうとするものであるとの説明がありました。

次に、国民宿舎事業特別会計であります、施設の利用状況等について説明を求めましたところ、63年度予算編成にあたっては、宿泊予定人員2万5000人を見込んでおり、過去の実績から平日利用はそのうちの47.5%、土曜日、夏季、年末年始については一部を除いて100%で、平日の利用については部屋の稼働率は80%程度であるが、一人一部屋など利用率では30%程度になるとの説明がありました。

なお、今後平日利用の増大について一層の努力をされたいとの意見が

ありました。

以上が質疑応答等の概要でございます。

採決の結果、議案第1号乃至議案第7号の一般会計並びに各特別会計予算については、全員一致をもって、それぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本委員会におきます審査の概要につきまして御報告申し上げましたが、市当局に置かれましては、今後の予算執行、行政の運営にあたっては本特別委員会における要望、指摘事項等を十分に配慮されるよう要望いたしまして、予算審査特別委員会委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

○11番（神田守隆君） 議案第1号昭和63年度館山市一般会計予算、議案第2号昭和63年度館山市国民健康保険特別会計予算、それぞれに反対の討論をいたします。

新年度は、中曽根自民党内閣が、昭和61年度から3カ年間ということで、国庫補助金等のカットを地方自治体に押しつけてきましたが、その最終年度であります。館山市財政にとりましても、この3年間にわたる補助金カットの影響は深刻なものがあります。こうした国の一方的な館山市への財政負担押しつけは認められません。特に、お年寄りや障害者あるいは低所得者、子供たちのための各種福祉施策に対する国庫負担率の引き下げは許せません。

引き下げられた国庫負担率を元に戻すとともに、昭和60年度から4カ年間にわたり地方自治体に押しつけられた財政負担に対し、その補てんを国に対し強く求める必要があると考えます。

新年度予算では、幼稚園入園料を6000円から7200円へと1200円の値上げが見込まれております。値上げの理由は、地方交付税算定の基準で入園料が7200円になったからというものであります。しかし、地方交付税の算定基準をそのまま料金の基準とする理由はありません。幼稚園入園料の値上げによる増収はわずか50万円足らずに過ぎず、財政的には何ら緊急性のあるものとは考えられません。

地方交付税の算定基準が変えられるたびに、あたふたと料金改定を行う半澤市政に、臨調が打ち出したいわゆる標準行政の押しつけを進んで受け入れようとする姿を感じないわけにはいきません。こうした半澤市長の政治姿勢は、臨調路線に迎合すると言わざるを得ません。

新年度予算では、市長交際費が450万円から550万円に100万円増額されています。また、議長交際費も150万円から200万円へと50万円増額されていますが、これらの支出を抑えて幼稚園入園料を据え置くよう主張いたします。

国保会計予算に反対の討論をいたします。

新年度国保税は、対前年度決算見込みに対し1人当たり平均調定見込み額は108.41%となっています。世帯当たりでは106.60%となっています。この当初予算では、一般会計から2000万円の繰り入れを実施したにもかかわらず、6乃至8%の国保税の負担増が見込まれていることになります。

鴨川市では、すでに2月25日付の市広報で、新年度国保税は値上げしませんと市民に公表いたしました。が、質疑の中でこのことも紹介しながら値上げはしないという市長の強い決意を求めました。しかし、残念ながらそうした決意はいただけませんでした。値上げ含みのこの国保予算を認めることはできません。

なお、2000万円の一般会計からの繰り入れ自体は、施策の前進として高く評価いたします。これに関連して、社会党の辻田議員さんから、一般会計からの繰り入れは撤回すべきとの主張がなされました。この意見について申し述べます。

辻田議員さんは、国保は相互扶助の原則により運営されるべきと強調されました。確かに、それは一面の真理であります。しかし、同時に国

民健康保険法第77条では、「保険者は、条例又は規約の定めるところにより、特別の理由がある者に対し、保険料を減免し、又はその徴収を猶予することができる」と定めています。保険料の減免は、他の医療保険には見られない制度であります。それは国保の目的とするところが単に加入者の相互扶助にとどまらず、社会保障としての役割が期待されているからにほかなりません。このことを国民健康保険法の第1条は明確にうたっております。

事実、他の医療保険に比べ国保には所得のない人、低所得の人と社会的に弱い立場の人が多く含まれております。こうした国保の性格からして、まず第一義的には国が必要な財政措置を講じるべきであります。国は、医療費の45%をこれまで負担していましたが、これを退職者医療の創設を口実に38.5%に引き下げてしまいました。このために現在の国保財政の危機が深刻なものとなってあらわれているのであります。

この結果、館山市国保の場合、政管健保に比べても同じ所得水準で比較いたしますと、国保加入者はすでに2倍以上の高い負担をしているわけであります。国は社会保障としてのこの国民健康保険に対して、国のその責任を後退させた、このために深刻な国保税の高騰を招いたということがいえるわけであります。

こうした中にありまして、一般会計からの助成をして市が積極的に国保税の軽減を図ろうとすることは、社会的に弱い立場の国保加入者を守る施策として積極的な施策であります。これを撤回しろとの主張は弱い者いじめであります。

病気にさえならなければ国保税は高くないはずとの主張もございましたが、一体誰が好きこのんで病気になる人がいるのでしょうか。国保税が高いのは加入者が病気になるからとの主張は当たりません。そもそも国保は労働者といえども失業したり、定年を迎えたりすれば入ることになるわけであります。現役で働いていたときは病気一つしなかったという方も定年を迎え国保に加入したころから病気がちになる、こういうことがあっても当たり前のことであります。組合健保の中でも構成員の平均年齢によって保険料に違いが出てくることは辻田議員さんもよく御承知のことと思います。国保の年齢構成は制度的にどうしても高くなる

ことはやむを得ません。特に、当市にあってはそうであります。

こうした事情を考えれば、一般会計から国保への助成措置は遅きに失したと言えても、これを撤回しろというべき筋のことではありません。

以上の点を申し述べまして、反対討論といたします。

○議長（飯田義男君） 以上で、11番議員神田守隆君の討論を終わります。

次に、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

○21番（辻田 実君） 私は、議案第1号63年度館山市一般会計予算に対して賛成の立場から御意見を申し述べたいと思います。

本年度の予算は、率直に言って、幼稚園の入園料の値上げと国民健康保険特別会計への繰出金が予算に計上されている点については、不満を示すものでございます。

しかし、莫大な予算の中で、不満な部分、不十分な部分があるからといって予算案全体に対して反対することは適切でないと私は思うのでございます。

そして、私は、次の3点を高く評価し、総合的に見て、63年度一般会計予算に賛成をしたいと思うのでございます。

1つは、58年度予算以来、前年度対比でマイナスまたは1%台の伸びであった予算が、本年度は6.8%伸び、国の予算4.8%、地方財政計画による伸びの6.3%を上回っておりますことを高く評価するところでございます。

第2は、活力ある文化都市の実現を目指した施政方針が立派であるからでございます。

第3は、ただいま予算審査特別委員長からの報告の中で、適切な要望意見が出されておったからでございます。

以上、3点に基づいて私は予算案に賛成するものでございます。

次に、私は、予算の執行にあたり6点の補強意見を申し述べさせていただきます。

まず、第1は、積極財政の推進を今後とも続けていただきたいと思いますのでございます。予算の伸びは確かに伸びておりますけれども、今年度

の予算は前年度の補正予算に対しますところの割合から見ると、1億5682万円の減少でございます。経済の状況、国、県の行財政の状況から見て、ことしはもっと大幅な伸びを示す予算を組むことはできたであろうというふうに私は思っているからでございます。今後、特に市民税の自然増は予算以上の大幅なものが見込まれると思います。そうした点についてはどうか補正予算の中におきましては施政方針に沿った積極的な事業の推進に努めていただきたいと思いますのでございます。

2番目は、市債の依存体質からの脱却について意見を述べさせていただきます。63年度も当初予算で前年より1億3380万円の増になっております。半澤市長就任以来、地方財政が逼迫化しておるという事情もございすけれども、しかしながら、今日その累積赤字は膨大なものに達しております。したがって、私は、今年度の予算執行にあたりまして、この点を十分対処しながら起債体質の依存から脱却するよう努力していただきますことを要望いたす次第でございます。

3番目として、支出の面に移りまして、リゾート開発についてでございます。県議会の総務企画常任委員会は、基本構想の前提となる基本調査の結果をさきに承認いたしました。知事はこの基礎調査を今月中に国に提出するというのが昨日、一昨日の新聞に報道されております。その内容には、館山市から銚子までの沿岸線9市25町3村で、その面積17万8000㌔、館山市内は特に2カ所の重点整備地区が上げられ、全体としては11カ所が上げられておるわけでございます。先日の田沢、日下両議員の通告質問では、県会の状況と市長の取り組みの間には大きな隔たりが感じられたように思われるのでございますけれども、このように県においては具体的な基礎調査を終わり国との折衝に入り、さらには館山市の中において11のうち2カ所の重点地域が設定されておること、これが県議会において承認され、国へ出されるという中において、特に県との連絡を密にしてリゾート法の適用が市民生活の上に大きなプラスになるように努力をしていただきたいと思います。

特に、予算に計上された調査委託費の執行にあたっては、十分な効果を上げられるよう特段の配慮を要望する次第でございます。

4番目に、駅周辺の再開発についてでございます。先ほども申し上げ

ましたが、施政方針に示された熱意とは逆に、予算面では額が少ないという感じがいたします。予算額が少なくても成果を上げることはできると思いますけれども、どうかこの点については館山市長の名誉にかけても昨年のように未執行に終わるといふことのないよう着実な推進を要望いたします次第でございます。

5番目には、教育費の前年対比の減少とスポーツの振興について要望いたしたいと思うのでございます。教育費の振興につきましては、半澤市長就任以来、施設の充実、環境整備につきましては非常なる成果を上げ、ある程度その目的を達成した感に思われるわけでございまして、この点については敬意を表するものでございます。しかしながら、ここ2、3年来、教育費の予算内に占める割合が減少しております。本年度も昨年対比におきまして減っております。この構成比の割合は館山市政の中において最低水準に入るところの低い構成割合になっておるところでございます。予算が少ないからといって教育行政が後退するとは思われませんけれども、しかしながら、文化都市を目指す館山市においては教育費の予算に占める割合がもっと高くてもいいんじゃないか。予算があればもっと充実した文化教育施設の推進ができるというふうに考えられるわけでございまして、そういう面については若干私は心配するわけでございますけれども、市長の政治力に信頼をいたしまして、教育行政の進展、育成に対処されますことを要望いたします次第でございます。

特に、その中においてスポーツの振興でございますけれども、リゾート地の目玉は何といってもスポーツと健康でございます。また、21世紀に向かって、現代の青少年にとってスポーツが非常に大切なものになってきていることは周知のとおりでございます。市民がスポーツの機会に恵まれ、楽しみが生まれなければリゾート地としては不適格と言わざるを得なくなるのでございます。こうした観点から、スポーツの振興については特段の御配慮をいただきたいというふうに思います。

特に、スポーツ振興法第3条に明記されておりますように、市町村の役割と同法第8条青少年のスポーツ、同じく第9条職場スポーツ、同じく第11条の指導者の育成、同じく第12条の施設の充実に関しては、それぞれ必要な措置を地方自治体で考慮するように努めなければならな

いとなっているわけでございますから、この観点に立ってスポーツの振興を一層推進していただきますことを要望する次第でございます。

次に、藤原の県立運動場については、63年度予算の中においてはもっとも大きな事業費でございます。この内容は全国レベルの大会が可能な規模というだけでございますけれども、私は、議員としてその内容をよく知らないままにこの予算に賛成しなければならないわけでございます。私は、当局を全面的に信頼いたしまして、市民の期待に沿えるような体育館にさせていただきたいというふうに思います。できれば、リゾート、さらには観光の観点、教育の観点等を十分考慮し、これらの関係機関との合意を取りつけられるような体育館にさせていただくことを希望してやみません。

第6番目に、最後になりますけれども、国民健康保険特別会計の繰り入れについて御意見を申し上げたいと思います。

先ほど来、他の議員から私に対していろいろな要望がされておりますけれども、私は市長ではございませんので、これらの見解にお答えするわけにはまいりません。私は議員の立場から館山市並びに市長に対して、63年度予算に対して繰り入れに対するとするところの要望意見を申し述べたいと思うわけでございます。

質疑の中で申しましたが、国保会計は相互扶助、独立会計の立場から運営されるのは当然でございます。市長もこの見解に立っておられますことを私は非常に強く喜んでいる次第でございます。したがって、現在、市民で国保に加入している人は約半分弱の45%前後であるということ、そして全国的に見ましても、一般会計から特別会計へと繰り入れているところの市町村は現在の段階で70%で、残りの30%は一般会計から繰り入れをしなくて運営にあたっているというのがあるわけでございます。私は、この点を考えるときに、一般会計から予算を繰り入れることはベターではございません。むしろ独立会計として住民の負担を少なくし、そして健全に運営されることこそ、議会とそして当局が追求すべき目標ではないかというふうに考える次第でございます。

そのためには、今日の状況におきまして、まず第一に、特別会計の経費の節減を図ればよいわけございまして、その中におきましても、説

明にございますように、医療費及び老人保健の拠出金の増高等を考慮して一般会計からの繰り入れをして対処したいということでございますけれども、この点については、医療費の節減については十分検討してもらいたい。

私は、そうした点につきまして、まず第一に、保健衛生思想の普及を図るべきだというふうに考えております。そういう点につきましては、本年度の予算におきましては検診の充実、予防等の普及に非常に努力されている点につきましては高く評価するところでございます。

しかしながら、もう一つは、医療機関の充実に対しての考慮については、まだ若干十分とはいえない点があるかと思うのでございます。館山市はかつて医師会病院の設立に積極的に協力し、その医療の普及に、また充実については大きな役割を果たしてまいりました歴史がございます。そうした中において医療費の増高の中には初診者の、俗にいうたらい回しというのが非常に多く見受けられるように思われます。私の身の回りでもこの病院に行って診てもらったらこうだった、Bの病院で診てもらったらこうだった、そしてまた不安だからCの病院で診てもらったらどうもぐあいが悪いから千葉の病院とか、君津の病院、鴨川の病院に行って精密検査をしてもらって、どうもぐあい悪かったから入院するというようなケースが非常に多くございます。

ということは、私は、ここで申し上げたいのは、医療機関の充実に市が積極的に協力し、そして初診者に対して1回でもって信頼されるような医療体制を市の中においてもつけてもらいたい。そうすれば、1軒の病院に行っただけでもって2軒、3軒と回る必要がないんです。私も医師会の多くの方々と知り合っておりますけれども、みんな一人一人の医師は立派な先生でございます。なんでこういう立派な先生の診断に対して信頼ができないか。そして2軒、3軒回ってとどのつまりが千葉とか君津に行ってしまう。こういうことであつたんでは私はこの医療費の節減ということはできないというふうに思います。こういった点については、医療思想の普及という面で、もっと市は積極的にやはり市民に対して普及をしていくべきだというふうに思います。

それから、2番目には、やはり館山市内におきますところの医療機関、

私立という問題があるかも知れませんが、充実さしてもらいたい。聞くところによりますと、館山でもって診断を受けて、千葉とか木更津、鴨川に行って入院し治療を受けるという人が非常に多いということを聞いております。事実、私の周辺にもそういう人が非常に多いんです。そっちの病院に行って入院治療して、館山市の健康保険の医療費の中でもっとも多いのが入院医療費の増大でございます。このことがあるからしたがいまして一般会計から繰り入れをしなければならないという状況でございます。したがいまして、館山の医療機関を充実さしていけば、公立、私立問わず充実さしていけば、木更津や鴨川に入院することないんです。館山市内でもって医療を安心して受けて、そして直していくという健康医療の充実、普及を積極的に推進するならば、私は一般会計からも繰り入れをせずに、これまで館山市がやってきたように、30%の市の仲間入りするように、一般会計からの繰り入れをなくして独立会計として運営できるというように確信をいたしている次第でございます。

そういう意味におきまして、私は、今年度の予算の中に2000万円でございますが、一般会計の繰り入れをしている——しかしながら、今、申し上げたようなことを十分配慮されながら、市長もそのように努力されておりますので、なお一層努力されまして、結果的には2000万円の一般会計からの繰り入れをしなくても、現行のままにおいて医療費の削減がなされまして済むというような状況に努力をいたしていただきたい。私どもも議会人としてしまして、そういう面から協力を惜しむものではございません。このことを申し上げまして、最後になりますけれども、一たん一般会計からの繰り入れをしてしまいますと、歯止めがなくなります、慣例化されます、これでは館山市の行政としては非常に不名誉なことでございますので、こうしたことのないように共に努力してまいりますことを申し述べまして、私の討論にかえさせていただきます。どうかよろしく願いを申し上げます。

◎議長（飯田義男君） 以上で、21番議員辻田 実君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論

ありませんか。

(18 番議員日下君敏君登壇)

◎ 18 番 (日下君敏君) 私は、日程第 6、議案第 1 号乃至議案第 7 号に関し、全般的に賛成討論をいたすものでございます。

63 年度予算案につきましては、私がさきの一般通告質問の中で申しましたように、本年度は大変前向きかつ積極的に予算が編成されておるということで、まず賛成いたすものでございます。

具体的に、ほぼ 3 点につきまして、賛成の要点を申し上げたいと思います。

第 1 点は、本年度予算が 102 億と 100 億円の大台を超えたということでございます。単に、予算が、規模が大きくなればよいということではございませんが、館山市の予算を見た場合、58 年度で 100 億円を超えましたが、以後、90 億円台をほぼ前年並みに推移し、積極的な予算とは言いがたいものがありました。今年度は、成長率も対前年度比 6% 台、102 億と大台を超えたことにつきまして、その前向きな積極的な姿勢に賛成をいたすものでございます。

第 2 点目といたしまして、我が館山市の政策で、経済政策について、その財政上の配分が重点的に行われておるということでございます。私は、かねてから、財政的には積極財政を推し進めるよう申し述べてきたものでございますが、来年度の予算を見ますと、西口駅前開発をはじめ、我が館山市が転換期を迎え、ここに至って半島性の脱却のためにリゾート法、半島振興法等々のために、十分なる予算を配置いたしておると存ずるからであります。

第 3 点目といたしまして、ただいま問題になっております国保税の一般会計からの繰り入れでありますが、私は、万やむを得ないものとして、一般会計からの国保税の繰り入れに賛成いたすものであります。

国保税は、先ほど来問題になっておりますが、やはりその加入者に低所得者が大変多いということでございます。そして、その保険税は一般的な基準はつけがたいんでございますが、私見で申し上げれば、もはやある種の限界にきておるのではないかと、かように思うわけであります。

一方で、医療費が増大いたします。病気にかかわることは経済的問題

とはちょっと切りはなして考えるべきでございまして、現実には医療費が上がる、その医療費が上がったものについて加入者がそれを負担する、そういう現在の制度でございます。根本的にはやはり国が保険税の一本化を図るべきであります。現体制下におきましては、すでにわれわれ被保険者の保険税がある種の限界にきておる、そういうところに至った場合、やはり2万6000名からの館山市の市民が加入し、そして低所得者が多い、減免措置も取らざるを得ない、そういう状況下にありましては、一般会計からの繰り入れはやむを得ない、かように存ずるものでございます。

ただ、単に、一般会計からの繰り入れの場合に、やはりある一定の歯止めをつけて、会計からの繰り入れをいたすということに私は賛成でございます。その点、今年度2000万円を一般会計から繰り出しておるということにつきまして賛成いたすものでございます。

以上、3点より本年度予算について賛成討論をいたすものであります。

◎議長（飯田義男君） 他に討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第1号昭和63年度館山市一般会計予算について起立により採決いたします。

議案第1号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、議案第1号昭和63年度館山市一般会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第2号昭和63年度館山市国民健康保険特別会計予算について起立により採決いたします。

議案第2号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、議案第2号昭和63年度館山市国民健康保険特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第3号乃至議案第7号の各特別会計予算について一括して採決いたします。

議案第3号乃至議案第7号に対する委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、議案第3号乃至議案第7号の各特別会計予算は原案どおり可決されました。

暫時、休憩いたします。

午後零時23分 休憩

午後2時35分 再開

◎議長(飯田義男君) 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

◎議長(飯田義男君) 日程第7、議案第26号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(飯田義男君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(飯田義男君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 議案第26号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

去る2月29日をもちまして、任期満了となりました人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により候補者の推薦を求められておりますので、引き続き森 信次さんを最適任者としまして御推薦申し上げたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第8、議案第27号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（飯田義男君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（飯田義男君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 議案第27号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由を御説明申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、伊藤昌彦君がこの3月31日をもって任期が満了いたしますので、引き続き同君を適任と考え、選任いたしたく存じます。御賛同賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第9、議案第28号館山市収入役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（飯田義男君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（飯田義男君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 議案第28号館山市収入役の選任について提案理由を御説明申し上げます。

本市収入役山田俊康君がこの3月31日をもって任期満了となりますので、その後任として現在の渡辺 弘民生部長を適任と考えまして、選任いたしたく、市議会の御同意を得ようとするものでございます。

よろしくお願いいたします。

◎議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は起立により行ひます。

収入役の選任について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、収入役の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

日程の追加

◎議長（飯田義男君） ただいま市長から議案第29号館山市監査委員の選任についてが提出されました。

この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに

御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、この際、議案第29号館山市監査委員の選任についてを日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の配付

◎議長(飯田義男君) 議案を配付いたさせます。

(議案配付)

◎議長(飯田義男君) 議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の上程

◎議長(飯田義男君) 議案第29号館山市監査委員の選任についてを議題といたします。

本案は、地方自治法第117条の規定により、流山源次郎君の一身上の事件でありますので、退席を求めます。

(23番議員流山源次郎君退場)

◎議長(飯田義男君) 議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(飯田義男君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(飯田義男君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 議案第29号館山市監査委員の選任について提案理由を御説明申し上げます。

本市の監査委員中、議員の中から選任をいたします委員が欠員となりましたので、流山源次郎議員が学識経験とともに豊かであり、適任と考えますので、選任をいたしたいと存じます。

御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

監査委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、監査委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

（23番議員流山源次郎君入場）

閉 会 午後2時46分

○議長（飯田義男君） 以上で、本定例会に付議されました案件は議了

いたしました。

よって、これにて第1回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第1号乃至議案第28号
- 1 請願第8号乃至請願第10号
- 1 日程の追加・発議案第1号
- 1 日程の追加・議案第29号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長 飯 田 義 男

館山市議会議員 山 崎 雅 己

館山市議会議員 辻 田 実

